派遣事業報告書

１．派遣事業名

２０００年　日英ジュニアバドミントン交流会

２．派遣期間

出国　平成１２年１２月２７日（水）　１２時００分　（ＪＡＬ４０１便）

帰国　平成１３年　１月　４日（木）　１５時４５分　（ＪＡＬ４０２便）

３．被派遣者

団　長	小野　　理	千葉県	松戸市立常盤平中学校教諭
監　督	名倉　康弘	埼玉県	川島町立川島西中学校教諭
コーチ	高瀬　秀雄	千葉県	私立西武台千葉高等学校教諭
選　手	早川　賢一	滋賀県	大津市立日吉中学校生徒
選　手	山口　　俊	石川県	美川町立美川中学校生徒
選　手	川口謙太郎	熊本県	八代市立第三中学校生徒
選　手	黄倉　　英	栃木県	宇都宮市立鬼怒中学校生徒
選　手	岡田　秀樹	千葉県	私立西武台中学校生徒
選　手	岩田　翔舞	埼玉県	川島町立川島西中学校生徒
選　手	西村　沙希	石川県	金沢市立森本中学校生徒
選　手	今別府香里	奈良県	大和高田市立片塩中学校生徒
選　手	白山　愛子	長崎県	長崎市立東長崎中学校生徒
選　手	樽野　　恵	福岡県	北九州市立あやめが丘中学校生徒
選　手	高須賀未央	千葉県	私立西武台中学校生徒
選　手	島田　　恵	埼玉県	川島町立川島西中学校生徒

４．大会結果

（1）大 会 名　日本対ミルトンケインズ・選抜

（2）期　　日　平成１２年１２月２８日（木）

（3）会　　場　イングランド・ナショナルバドミントンクラブ

（4）参加人数　男子１２名、女子１２名、合計２４名

（5）成　　績

男子団体（シングルス）　　日本　　６　－　０　　ミルトンケインズ選抜

川口謙太郎　２　（１５－　６／１５－　５／　－）　０　バルウインダー・マッサル

早川　賢一　２　（１５－　８／１５－１０／　－）　０　クリス・ロー

山口　　俊　2 $\begin{pmatrix} 15-10 \\ 15-\ \ 5 \\ - \end{pmatrix}$ 0　フリップ・ジェファリーズ

岡田　秀樹　2 $\begin{pmatrix} 15-\ \ 0 \\ 15-\ \ 5 \\ - \end{pmatrix}$ 0　トマス・マクベイ

黄倉　　英　2 $\begin{pmatrix} 15-\ \ 1 \\ 15-\ \ 0 \\ - \end{pmatrix}$ 0　ジェミー・ガンタート

岩田　翔舞　2 $\begin{pmatrix} 15-\ \ 1 \\ 15-\ \ 1 \\ - \end{pmatrix}$ 0　アルビン・チャン

女子団体（シングルス）　日本　6　－　0　ミルトンケインズ選抜

今別府香里　2 $\begin{pmatrix} 11-\ \ 0 \\ 13-11 \\ - \end{pmatrix}$ 0　アンケイ・トーマス

西村　沙希　2 $\begin{pmatrix} 11-\ \ 1 \\ 11-\ \ 9 \\ - \end{pmatrix}$ 0　ジェナ・タイ

高須賀未央　2 $\begin{pmatrix} 11-\ \ 4 \\ 11-\ \ 5 \\ - \end{pmatrix}$ 0　チェリー・ライン

白山　愛子　2 $\begin{pmatrix} 11-\ \ 1 \\ 11-\ \ 2 \\ - \end{pmatrix}$ 0　スザンナ・メイランド

樽野　　恵　2 $\begin{pmatrix} 11-\ \ 0 \\ 11-\ \ 4 \\ - \end{pmatrix}$ 0　エマ・ダンクレイ

島田　　恵　2 $\begin{pmatrix} 11-\ \ 0 \\ 11-\ \ 2 \\ - \end{pmatrix}$ 0　ローレン・トーマス

男子団体（ダブルス）　　日本　　３　－　０　　ミルトンケインズ選抜

川口謙太郎	2	１５－　８ １２－１５ １５－　２	1	バルウインダー・マッサル
早川　賢一				クリス・ロー
山口　　俊	2	１５－　３ １５－　５ －	0	フリップ・ジェファリーズ
黄倉　　英				トマス・マクベイ
岩田　翔舞	2	１５－　８ １５－　９ －	0	アルビン・チャン
岡田　秀樹				ジェミー・ガンタート

女子団体（ダブルス）　　日本　　２　－　１　　ミルトンケインズ選抜

今別府香里	1	１５－　９ １１－１５ １３－１５	2	アンケイ・トーマス
西村　沙希				ジェナ・タイ
白山　愛子	2	１７－１５ １５－　１ －	0	チェリー・ライン
樽野　　恵				スザンナ・メイランド
島田　　恵	2	１５－　１ １５－　４ －	0	エマ・ダンクレイ
高須賀未央				ローレン・トーマス

（1）大 会 名　第1回　日本対イングランド
（2）期　　日　平成１２年１２月２９日（金）
（3）会　　場　イングランド・ナショナルバドミントンクラブ
（4）参加人数　男子１２名、女子１２名、合計２４名
（5）成　　績

男子団体（シングルス）　　日本　　６　－　０　　イングランド

川口謙太郎	2	１５－　７ １５－１７ １５－　７	1	クリス・ラングリッジ
早川　賢一	2	１５－　６ １５－１３ －	0	ロビン・ミドルトン

山口　　俊　2　15－　8
15－　5
　－　　0　ニール・ホワイト

岡田　秀樹　2　15－　7
15－　5
　－　　0　ハリー・ライト

黄倉　　英　2　15－　8
15－　5
　－　　0　マッソー・ハンセン

岩田　翔舞　2　6－15
15－　3
15－11　1　ダニエル・カルピオ

女子団体（シングルス）　　日本　　6　－　0　　イングランド

今別府香里　2　11－　1
11－　2
　－　　0　ジェニー・デイ

西村　沙希　2　11－　2
11－　7
　－　　0　キャロライン・ウェストレイ

高須賀未央　2　11－　1
11－　8
　－　　0　レシミ・オスカー

白山　愛子　2　13－10
11－　6
　－　　0　ラッシェル・ホワード

樽野　　恵　2　11－　6
　9－11
11－　1　1　サラ・ボック

島田　　恵　2　6－11
11－　7
11－　7　1　二コール・ペン

男子団体（ダブルス）　　日本　　０　－　３　　イングランド

川口謙太郎	1	１５－１２	2	クリス・ラングリッジ
早川　賢一		５－１５		ロビン・ミドルトン
		５－１５		
山口　　俊	0	６－１５	0	ダニエル・カルピオ
黄倉　　英		２－１５		ハリー・ライト
		－		
岩田　翔舞	1	１５－　９	2	マッソー・ハンセン
岡田　秀樹		７－１５		ニール・ホワイト
		５－１５		

女子団体（ダブルス）　　日本　　０　－　３　　イングランド

今別府香里	1	１４－１７	2	サラ・ボック
西村　沙希		１５－１２		ジェニー・デイ
		１１－１５		
白山　愛子	0	５－１５	2	ラッシェル・ホワード
樽野　　恵		９－１５		キャロライン・ウェストレイ
		－		
島田　　恵	0	８－１５	2	レシミ・オスカー
高須賀未央		１１－１５		二コール・ペン
		－		

（1）大 会 名　第2回　日本対イングランド
（2）期　　日　平成１２年１２月３０日（土）
（3）会　　場　イングランド・ナショナルバドミントンクラブ
（4）参加人数　男子１２名、女子１２名、合計２４名
（5）成　　績

男子団体（シングルス）　　日本　　５　－　１　　イングランド

川口謙太郎	2	１５－　４	0	ロビン・ミドルトン
		１５－１０		
		－		
早川　賢一	2	１２－１５	1	クリス・ラングリッジ
		１５－　７		
		１５－１１		

山口　　俊	2	15－13 15－　6 －	0	ハリー・ライト
岡田　秀樹	2	15－　7 15－　5 －	0	ニール・ホワイト
黄倉　　英	2	15－　9 17－14 －	0	ダニエル・カルピオ
岩田　翔舞	1	15－　7 8－15 8－15	2	マッソー・ハンセン

女子団体（シングルス）　日本　3　－　3　イングランド

今別府香里	1	11－　5 12－13 12－13	2	キャロライン・ウェストレイ
西村　沙希	2	11－　5 11－　1 －	0	ジェニー・デイ
高須賀未央	2	11－　5 11－　8 －	0	ラッシェル・ホワード
白山　愛子	2	11－　7 8－11 13－10	1	レシミ・オスカー
樽野　　恵	0	11－　6 4－11 12－13	2	レシミ・オスカー
島田　　恵	0	8－11 3－11 －	2	サラ・ボック

男子団体（ダブルス）　　日本　　１　－　２　　イングランド

川口謙太郎	2	１５－　５	0	ダニエル・カルピオ
早川　賢一		１５－　７		マッソー・ハンセン
		－		
山口　　俊	1	１７－１５	2	クリス・ラングリッジ
黄倉　　英		７－１５		ロビン・ミドルトン
		５－１５		
岩田　翔舞	0	５－１５	2	ハリー・ライト
岡田　秀樹		７－１５		ニール・ホワイト
		－		

女子団体（ダブルス）　　日本　　１　－　２　　イングランド

今別府香里	2	１５－１３	0	サラ・ボック
高須賀未央		１５－　８		レシミ・オスカー
		－		
白山　愛子	0	１４－１７	2	ジェニー・デイ
西村　沙希		３－１５		キャロライン・ウェストレイ
		－		
島田　　恵	0	１１－１５	2	ジェニー・デイ
樽野　　恵		８－１５		ラッシェル・ホワード
		－		

（1）大 会 名　第3回　日本対イングランド
（2）期　　日　平成１２年１２月３１日（日）
（3）会　　場　イングランド・ナショナルバドミントンクラブ
（4）参加人数　男子１２名、女子１１名、合計２３名
（5）成　　績

男子団体（シングルス）　　日本　　４　－　２　　イングランド

川口謙太郎	2	１５－　７	0	ニール・ホワイト
		１５－　６		
		－		
早川　賢一	2	１５－１３	0	ダニエル・カルピオ
		１５－１２		
		－		

山口　　俊　1　（１０－１５
１２－１５
１５－１７）　2　ロビン・ミドルトン

岡田　秀樹　2　（１４－１７
１５－１０
１５－１３）　1　マッソー・ハンセン

黄倉　　英　2　（１５－１１
１５－１１
－）　0　クリス・ラングリッジ

岩田　翔舞　0　（６－１５
２－１５
－）　2　ハリー・ライト

女子団体（シングルス）　　日本　　５　－　１　　イングランド

今別府香里　2　（１１－　２
９－１１
１１－　４）　1　サラ・ボック

西村　沙希　2　（１１－　７
１１－　７
－）　0　サラ・ボック

高須賀未央　2　（１１－　４
１１－　３
－）　0　ジェニー・デイ

白山　愛子　2　（１１－　１
１１－　４
－）　0　キャロライン・ウェストレイ

樽野　　恵　2　（１１－　６
１１－　８
－）　0　レシミ・オスカー

島田　　恵　0　（４－１１
６－１１
－）　2　ラッシェル・ホワード

男子団体（ダブルス）　　日本　　２　－　１　　イングランド

川口謙太郎 早川　賢一	1	１７－１４ ７－１５ １０－１５	2	クリス・ラングリッジ ロビン・ミドルトン
山口　　俊 黄倉　　英	2	８－１５ １５－１０ １７－１６	1	ハリー・ライト ニール・ホワイト
岩田　翔舞 岡田　秀樹	2	１３－１５ １５－１１ １５－１１	1	ダニエル・カルピオ マッソー・ハンセン

女子団体（ダブルス）　　日本　　１　－　２　　イングランド

今別府香里 西村　沙希	1	５－１５ １５－　４ １５－１７	2	ジェニー・デイ キャロライン・ウェストレイ
白山　愛子 島田　　恵	0	４－１５ ７－１５ －	2	ジェニー・デイ ラッシェル・ホワード
高須賀未央 樽野　　恵	2	１０－１５ １５－１０ １７－１６	1	サラ・ボック レシミ・オスカー

（1）大 会 名　日本・イングランド　トーナメント戦
（2）期　　日　平成１３年1月１日（月）
（3）会　　場　イングランド・ナショナルバドミントンクラブ
（4）参加人数　男子１４名、女子１６名、合計３０名
（5）成　　績

男子シングルス

グループＡリーグ結果
川口謙太郎（２勝)、ニール・ホワイト（2敗)、ハリー・ライト（１勝１敗)

グループＢリーグ結果
ロビン・ミドルトン（２勝１敗)、**山口　俊（３勝)**、ダニエル・カルピオ（３敗)、岡田秀樹（１勝２敗)

グループＣリーグ結果
クリス・ラングリッジ（１勝２敗)、**黄倉　英（３勝)**、マッソー・ハンセン（１勝２敗)、岩田翔舞（１勝２敗)

グループＤリーグ結果

早川賢一（２勝)、ラジブ・オスカー（１勝１敗)、フィリップ・ジェフリーズ（２敗)

決勝トーナメント結果

セミファイナル

川口謙太郎	3	７－３ ７－１ ０－７ ２－７ ７－４	2	山口　　俊

セミファイナル

早川　賢一	3	７－３ ７－５ ２－７ ７－０ －	1	黄倉　　英

ファイナル

川口謙太郎	3	７－１ ７－３ ７－２ － －	0	早川　賢一

女子シングルス

グループＡリーグ結果

キャロライン・ウェストレイ（２勝１敗)、**樽野　恵（３勝)**、ヘザー・オルバー（３敗)、チャリテー・バーンズ（１勝)

グループＢリーグ結果

西村沙希（３勝)、レシミ・オスカー（２勝１敗)、島田　恵（３敗)、サラ・ボック（２勝１敗)

グループＣリーグ結果

ジェニー・デイ（１勝２敗)、**白山愛子（３勝)**、エリノア・コックス（２勝１敗)、ジェニー・ビルトン（３敗)

グループＤリーグ結果

今別府香里（３勝)、レイチェル・ホワード（１勝２敗)、高須賀未央（２勝１敗)、ジェナ・タイ（３敗)

決勝トーナメント結果

セミファイナル

西村　沙希	3	７－２ ７－１ ７－５ － －	0	樽野　　恵

セミファイナル

今別府香里	3	7－0 7－5 5－7 8－6 －	1	白山　愛子

ファイナル

今別府香里	3	7－5 5－7 4－7 7－3 7－0	0	西村　沙希

男子ダブルス（日本・イングランド混合）

グループＡリーグ結果

早川賢一　ラジブ・オスカー（1勝2敗　3位)、
山口　俊　クリス・ラングリッジ（2勝1敗　2位)、
岡田秀樹　ニール・ホワイト（2勝1敗　1位)、
マッソー・ハンセン　フィリップ・ジェフリーズ（3敗　4位)

グループＢリーグ結果

川口謙太郎　ロビン・ミドルトン（2勝　1位)、
黄倉　英　ダニエル・カルピオ（1勝1敗　2位)
岩田翔舞　ハリー・ライト（2敗　3位)

トーナメント戦結果

１、２位決定戦

川口謙太郎 ロビン・ ミドルトン	3	7－1 7－2 7－2 － －	0	岡田秀樹 ニール・ホワイト

３、４位決定戦

黄倉　英 ダニエル・ カルピオ	3	5－7 7－6 7－5 7－3 －	1	山口　俊 クリス・ラングリッジ

５、６位決定戦

岩田翔舞 ハリー・ ライト	3	8－6 8－6 7－5 － －	0	早川賢一 ラジブ・オスカー

女子ダブルス（日本・イングランド混合）

グループＡリーグ結果

今別府香里　ヘザー・オルバー（１勝２敗　３位)、
西村沙希　レイチェル・ホワード（２勝１敗　２位)、
樽野　恵　ジェナ・タイ（１勝２敗　４位)、
ジェニー・ビルトン　レシミ・オスカー（２勝１敗　１位）

グループＢリーグ結果

高須賀未央　エリノア・コックス（１敗２棄権　４位)、
白山愛子　キャロライン・ウェストレイ（２勝１敗　１位）
チャリテー・バーンズ　ジェニー・デイ（１勝１敗１棄権　２位）
島田　恵　サラ・ボック（２敗１棄権　３位）

トーナメント戦結果

１、２位決定戦

白山愛子　３ キャロライン・ ウェストレイ	７－５ ５－７ ７－２ ５－７ ８－６	２	ジェニー・ビルトン レシミ・オスカー	

３、４位決定戦

西村沙希　３ レイチェル・ ホワード	７－０ ８－７ ７－０ － －	０	チャリテー・バーンズ ジェニー・デイ	

５、６位決定戦

今別府香里　３ ヘザー・ オルバー	７－４ ７－３ ７－４ － －	０	島田　恵 サラ・ボック	

７、８位決定戦　　エリノア・コックス　　棄権のため
樽野　恵　ジェナ・タイ　７位

（７）事業の成果

イ）現地でのコンディショニング

会場となった、ミルトンケインズのナショナル・バドミントンクラブはオープンして９ヶ月という大変新しく、そして、施設内も大変充実したものであった。宿舎はそのバドミントンクラブに隣接しており､食事もそのクラブ内のレストランで３食とることが出来た。

１２月２７日に現地入りをしたが、その夜に降雪があり、大変寒い状況であったが、選手、役員共に体調を大きく崩すこともなく、交流会を終了することが出来た。降雪のために屋外でのランニングが不可能となり、バドミントンクラブ内の体育館やトレーニング室でのランニングマシンによる、下肢トレーニングに励んだ。特に、ランニングマシンによるトレーニングは思っていた以上の効果が上がり、日常このようなトレーニングマシンを

使用することない中学生選手にとっては、とっても良い経験となった。

また、時差ボケが顕著に表れる選手もなく、現地入りして、２日程でバドミントンクラブ内の体育館にも慣れ、各選手は実力を十分に発揮出来たようである。

食事については前述した通り、バドミントンクラブ内で３食とることが出来たが、日本食は当然とることが出来ず、食事については後半ややつらいものがあった。各自が持参したインスタント食品や現地で調達した日本食と思しき食べ物を食べ、栄養確保に努力した。

ロ）試合経過と戦評

試合全般では、男女ともにシングルスでは日本完全優位で試合が進んだ。これは、選ばれた今回の選手が、昨年９月に愛知県大府市にて開催された「全日本ジュニアバドミントン選手権大会」の入賞者という経緯からであろう。が、ダブルスにおいては、立場が逆転し、イングランド優位で試合が展開された。日本側は日頃、ダブルスを十分に練習していないのと、パートナーとの不慣れが原因とされる。ダブルスの試合展開も強力なスマッシュを得意とするイングランド選手にやや日本選手が圧倒され、戸惑う場面もよく見受けられた。ファイナルゲームまで持ちこむものの、あと一歩力及ばす、敗退するケースが多かった。

１月１日には日本・イングランドの親善個人戦が行われたが、ダブルスについては両国同士でペアを組むという交流を含めた試合であった。また、ポイントも７点５ゲームという日本国内ではほとんど行われていないゲームカウントで行った。このダブルス戦は予想外に好ゲームが見られた。親善も含めて、両国の選手が素晴らしい汗を流していた。また、主催した ESBA（England School Badminton Associatoin）側が入賞のトロフィーを用意してくれるなど、心温まる配慮には頭が下がった。

ハ）競技の総評と反省

今回の派遣は国際大会への参加ではなく、日本とイングランドとの中学生がバドミントンを通しての国際親善交流というのが大きな目的の一つであった。イングランド側の中学生もクリスマス休暇中で、期間中はこのバドミントンクラブに同宿し、日本側と積極的に交流を深めた。試合やバドミントンの練習中だけでなく、歓迎会や休憩時間に両国の中学生選手が言葉は通じなくても、身振りや手振りでコミュニケーションをとり、交流を深める素晴らしい場面を多く見られたのは感動的でもあった。若い世代で国際理解や相互理解が深まるのは本当に喜ばしいことであり、遠い国イギリスへ来た価値は十分にあったと確信するものである。一昨年日本へ来日したイングランドの中学生が身体もバドミントンの力も成長しているのを見ると指導者にとっても他国選手の成長の段階を直に垣間見ることが出来る良い経験ともなった。

バドミントンの技術習得の面でも日頃対戦することない外国人とのプレーから様々なものを学びとった者が多かった。フットワークやラケットワークが比較的粗雑な者が多いイングランド選手が日本人とは違う強力なスマッシュ力を持っていることやダブルスにおいては、そのスマッシュ力を基盤としたゲーム展開を得意とすること、シングルスのプレーとはまた別の意味での持久力があり、日本選手がその粘りに翻弄されてしまうことなどを直に体験出来た。また、語学力の必要性を身に持って経験出来たことは、今後の学業生活にも大きなプラスとなるであろう。

最後に、今回の会場となったイングランド・ナショナル・バドミントンクラブについて少し述べさせていただきたい。このクラブは３００万£（約５億円）という巨費を投じて

造られた施設であり、もちろんバドミントン専用施設である。バドミントン専用体育館は照明にも配慮されたバドミントンコートが８面とれ､暖房完備の理想的な体育館であった。また、施設内にはトレーニング室（各種のトレーニングマシンを完備)、食堂、ロビー、そして、宿舎（宿泊４０人程度可能）が隣接している。施設内の一角にはイングランド協会事務局があり、この施設全体で３０名のスタッフが働いているという。今後このような施設をイギリス国内に４ヶ所建設予定で、２ヶ所は既に建設中であるという。施設建設や維持についてはスポーツイングランドという政府機関（スポーツくじの収益還元団体）が行っているようであるが、我が国でもようやくサッカーくじが始められようとし、スポーツ振興の基金作り着手し始めたばかりである。数年後にこのようなバドミントンクラブが我が国にオープンし、日本のバドミントン競技の中枢となり、様々なバドミントン競技の活動の拠点となる施設が出来ることを強く願いたいものである。

５．報告書作成年月日
平成１３年１月８日（月）

６．報告書作成者署名捺印